

第二回小学生作文コンクール「海外に紹介したい日本のこと」
〈最優秀賞…高学年の部〉

幸せカップラーメン

新宿区立市谷小学校 四年 中山 沙香

「ザザッザッ。」

容器のシールをやぶって、キッチンタイマーを三分にセットした。
お湯を入れる。顔に湯気がもわつとあたった。

「ピ。」

ふたをしてスタートする。

「あー。らくちん、らくちん。」

と言いながら、ごろりと横になり本を読み始めた。

「ピ。ピ。ピ。ピ。」

タイマーが鳴った。ふたを外す、緑色のネギ、黄色いたまご、オレンジ色のえびが目飛び込んできた。いいにおいがへやいっぱいに広がった。

カップラーメンは、世界中で年間1000億食も消ひされていると、聞いたことを思い出した。想像がつかない数だ。一度も食わずに大きくなった人はきつといないと思う。

このカップラーメンは、安どう百福さんという日本人が発明した。「すべての人に十分な、食糧をいきわたらせたい」という大きな目標があったと本に書いてあったことを思い出した。

右手でおはしをもち、左手で、カップを持つ。あたたかさが伝わってくる。

「ズズルルルルル。」

ラーメンをはしですずりながらたべる。ほっぺたがおちるどころじゃあらわせないくらいおいしい。

「おいしい。」

「ズズルルル。」

「パクパクパク。」

「ゴクゴク。」

ラーメンを食べたり、スープをすすったりする。カップラーメンの合唱が始まった。手が止まらなくなる。だんだん笑顔になっていく。

このカップラーメンは、宇宙飛行士がたべていたと聞いたことがある。また青森県のような雪国では、カップラーメンの消ひが全国一位だというとう計もある。これは、大雪がふって買い物にいけないことがあるので、カップラーメンをたくさん家に保存しているという。便利で保存がきくすぐれものである。

「うわー。しあわせ。さいこう。」

私は思った。カップラーメンには人を幸せにする力があると。ぜひ、本場のカップラーメンを食べてみてください。ご当地ものなどいろいろなしゅるいがあるのできつと、お気に入り味の味がみつかるでしょう。

◎審査委員長からのコメント…

「幸せカップラーメン」が、おいしくできあがるまでの生き生きとした描写が見事です。カップラーメンの発明や宇宙にまで届けられている内容もあいだに入れ、構成力が光ります。